

**しまね産学官人材育成コンソーシアム
令和5年度事業評価書**

【目次】

1. 令和5年度における主な取組・トピックス	1
(1) 高大連携推進員による取組拡大（ステージ1）	1
(2) 学生・企業・教員の交流の充実（ステージ2～3）	1
(3) 若者定着促進事業の実施（ステージ2～3）	1
(4) インターンシップ等のプログラムチェックシートの作成（ステージ4）	1
(5) 教育プログラムの効果検証とキャリア支援に関するアンケートの実施	1
2. 県内就職率の状況	2
(1) 県内就職率の目標達成状況	2
(2) 高等教育機関別の分析	2
3. 各ステージの成果指標と令和5年度の事業評価	4
(1) 県内大学を知る	4
(2) 島根の企業を広く知る	9
(3) 関心の高い企業を深く知る	14
(4) 企業を選択する	26
4. その他の取組	34
(1) 成果報告会（協働教育フォーラム）	34
(2) キャリア支援に関するアンケート調査	34
5. 委員会等の活動について	35
(1) しまね大交流会実行委員会	35
(2) インターンシップ等推進委員会	36
(3) 高等教育機関WG	37
(4) 経済団体WG	38
6. 令和6年度事業の新たな取組	39
(1) 令和6年度の取組方針	39
資料1：令和5年度のKPI達成状況	40
資料2：各高等教育機関の県内就職率と県内入学者率の推移	41
(1) 島根大学	41
(2) 島根県立大学	43
(3) 松江工業高等専門学校	45

1. 令和5年度における主な取組・トピックス

令和5年度は、令和4年度までに実施してきた事業実績などを踏まえながら、ステージごとに拡充・強化できる取組を積み重ねた。

しかしながら、各ステージの目標値はおおむね達成しているものの、最終的な県内高等教育機関卒業生の県内就職率の向上につながっていないことから、各取組を点検しつつ、構成団体が一層連携して、効果を高めていくための改善を続ける必要がある。

(1) 高大連携推進員による取組拡大（ステージ1）

- 高校生を対象とした探求学習や進路を考える際に役立つ放課後・休日における講座等（あなたの背中そっと押しますプロジェクト）を県内大学の協力を得ながら、高大連携推進員が企画・実施した。県内大学での学びの一端に触れることにより、県内大学の理解促進にもつながっていく。

(2) 学生・企業・教員の交流の充実（ステージ2～3）

- 就活直前の両大学3年生と企業の人事担当者による意見交換会や、各機関の就職相談員、就職支援部門の職員と教員及び企業の人事担当者による意見交換会を開催し、各機関の取組の改善につながるよう参加者の意識や現状を共有し理解を深めた。

(3) 若者定着促進事業の実施（ステージ2～3）

- 構成団体ごとに、県内就職率の向上につながる新たな取組にチャレンジし、コンソーシアムとして助成する制度をスタートした。
 - ・島根大学：しまねつながる Meeting（ご縁）事業
 - ・島根県立大学：キャリアイベントバスツアー
 - ・島根県商工会議所連合会：島根夢創都市事業（若者の声で街を創る）
 - ・島根県中小企業家同友会：おしごとマルシェ 2023

(4) インターンシップ等のプログラムチェックシートの作成（ステージ4）

- 重要性が増すインターンシップ等の質の向上を進めるために、各企業が独自にプログラム内容のチェック・改善に取り組めるようチェックシートを作成した。

(5) 教育プログラムの効果検証とキャリア支援に関するアンケートの実施

- 学生の県内就職意識に一定の影響を与える各高等教育機関の企業と学生が直接関わる教育プログラムの効果検証と、島根大学・島根県立大学の最終学年を対象としたキャリア支援（就活実態）アンケート調査を実施した。これらの検証を踏まえ、コンソーシアム全体の取組の改善を図っていく必要がある。

2. 県内就職率の状況

(1) 県内就職率の目標達成状況

- 令和5年度の県内就職率についてはコンソーシアム全体としては目標値 38.5%に対し、32.3%（令和4実績比▲2.4P・対目標比▲6.2P）となった。
- 高等教育機関別では、島根大学 25.8%（令和4実績比▲4.1P）、島根県立大学 43.9%（令和4実績比+0.2P）、松江高専 22.3%（令和4実績比▲3.9P）となっており、島根県立大学は前年度より上昇し、島根大学と松江高専は前年度より下落している。

【コンソーシアムにおける実績と目標】

区 分	令和4実績 ①	令和5目標 ②	令和5実績 ③	令和4実績比 (③－①)	対目標比 (③－②)	R6目標
コンソーシアム	34.7%	38.5%	32.3%	▲2.4P	▲6.2P	39.4%
島根大学	29.9%	32.7%	25.8%	▲4.1P	▲6.9P	33.5%
島根県立大学	43.7%	45.0%	43.9%	+0.2P	▲1.1P	50.0%
松江高専	26.2%	33.1%	22.3%	▲3.9P	▲10.8P	33.8%

(2) 高等教育機関別の分析

① 島根大学

- ・ 島根大学では前年度よりも人間科学部の県内就職率が増加したものの、医学部（看護学科）を含む5学部の県内就職率が減少し、全体では4.1P減の25.8%、年度目標32.7%に対し、6.9P未達となった。
- ・ 令和5年度卒業生は入学時の県内出身者比率が少ない年（R5卒業生：21.1%、R4卒業生：22.4%）となっており、県外出身者の県内就職者が前年度比で13名（R5卒業生：63名、R4卒業生：76名）少なくなったためと考えられる。

	法文	教育	人間科学	総合理工	生物資源	医学部看護
R5年度	25.9%	37.9%	35.8%	20.2%	16.5%	34.7%
R4年度	28.1%	41.6%	24.6%	24.9%	23.3%	54.0%
増減	▲2.2P	▲3.7P	+11.2P	▲4.7P	▲6.8P	▲19.3P

② 島根県立大学

- 島根県立大学の県内就職率は43.9%となり、年度目標45.0%に対し1.1Pの未達となった。
- 前年度の43.7%から0.2P増加しており、これは入学時の県内出身者が令和4年度卒業生（43.9%）に比べ、令和5年度卒業生（46.8%）が多かったことが影響していると考えられる。

	総合政策	看護	健康栄養	保育教育	地域文化	保育（短）	文化情報（短）
R 5 年度	26.4%	49.4%	40.0%	75.0%	50.0%	65.9%	69.2%
R 4 年度	22.8%	47.4%	48.7%	41.5%	56.0%	84.2%	79.3%
増減	+3.6P	+2P	▲8.7P	+33.5P	▲6P	▲18.3P	▲10.1P

③ 松江高専

- 県内就職率は22.3%と3.9Pの減少、年度目標33.1%に対し、10.8P未達となった。専攻科を除く、5学科全体の県内就職率でも、24.4%と昨年度（29.0%・▲4.6P）よりも低い結果となった。また県内出身者に限定した県内就職率に関しても、28.2%（R4実績28.7%・▲0.5P）と減少している。

	機械工学	電気情報	電子制御	情報	環境・建設	専攻科
R 5 年度	6.7%	27.8%	33.3%	18.8%	33.3%	16.7%
R 4 年度	27.3%	38.9%	29.4%	40.0%	17.9%	16.0%
増減	▲20.6P	▲11.1P	+3.9P	▲21.2P	+15.4P	+0.7P

④ 今後の課題や対応

- 島根大学において、令和7年度入試から生物資源科学部の特別選抜募集定員を約1割増加させるなど、入学定員の大きい理系学部（総合理工学部、生物資源科学部、材料エネルギー学部）を中心に入学者の県内出身者比率を高めるとともに、把握が可能となった在学中の「就職希望地」の意向調査結果を踏まえた体系的な施策展開を図る。
- 県立大学においても、学校推薦型選抜の見直しなどにより、県内出身者比率を高める取組を継続することとし、加えて、県内出身者のみならず、県外出身者についても引き続き県内企業との接点を創出し、県内企業を知る機会を増やしていく。
- 松江高専においては、ここ数年、進学希望者が増加傾向となっている。この傾向が今年度も持続するか確認しながら、従来のイベントを確実にこなしていく。また県内企業への会社見学等を企画し、学生への県内企業の情報発信等を行う。

3. 各ステージの成果指標と令和5年度の事業評価

(1) 県内大学を知る

- 県内入学者は、島根大学 21.6%（R 5 実績 26.7%・▲5.1 P）、県立大学 48.8%（R 5 実績 52.6%・▲3.8 P）、松江高専 92.3%（R 5 実績 87.3%・+5.0 P）、全体では 36.9%（R 5 実績 40.2%・▲3.3 P）となり、実数ベースでは 66 人の減少となっている。

	令和5年度 入学者数（県内入学者数）%	令和6年度 入学者数（県内入学者数）%	増減入学者数 （県内入学者数）%
島根大学	1,223 人（327 人） 26.7%	1,228 人（265 人） 21.6%	+5 人（▲62 人） ▲5.1 P
島根県立大学	557 人（293 人） 52.6%	566 人（276 人） 48.8%	+9 人（▲17 人） ▲3.8 P
松江高専	204 人（178 人） 87.3%	207 人（191 人） 92.3%	+3 人（+13 人） +5.0 P
計	1,984 人（798 人） 40.2%	2,001 人（732 人） 36.9%	+17 人（▲66 人） ▲3.3 P

※松江高専においては、4 年生の在籍数（原級留置含む）

※島根県立大学においては別科助産を除く

① 高大連携を推進する人材の配置

【目的と概要】

- ・ 学校全体での授業改善や地域との協働に加え、県内大学等との高大連携や入試改革に適応した取組を推進するため、教科・分掌の垣根を越えて校内をリードできる職階の主幹教諭を全ての普通科高校 21 校に配置する。
- ・ 県内大学との高大連携の取組の推進と総合型・学校推薦型選抜による県内大学への入学を希望する生徒の進路実現を図るため、高大連携推進員を松江・出雲・石見エリアに各 1 人配置する。令和5年度からは、材料エネルギー学部をはじめとする島根大学理系学部との連携強化のための高大連携推進員を新たに 1 名配置する。
- ・ 一部の専門高校に理数教科の教員を配置し、大学進学を目指せる学力の育成により進路選択の幅を拡げる取組を推進する。

【実績報告】

- ・ 令和5年度は新たな取組として、高校生を対象とした、探究学習や進路を考える際に役立つ放課後・休日における講座等（「あなたの背中そっと押しますプロジェクト」）を、県内大学の協力を得て、高大連携推進員が企画・実施した。

県内大学の学部・学科の学びに関連した講座等のほか、学生による学部・学科を紹介する講座のシリーズ化など、令和5年7月の開始以降、38 講座を企画し、延べ 472 人の高校生が参加した。

「大学生の話を聞いて自分の進みたい道が見つかった」といった参加者の声から、講座等を通じて、生徒自身が進路についてより具体的にイメージし、考えるきっかけ

けとなったことがうかがえた。

- ・ 県内大学の総合型選抜や学校推薦型選抜等への出願を検討している高校3年生を対象とした、課程外の時間を活用した進路探究プログラム「オンライン進路探究ゼミ」を全県で実施した。

【参考】

- ・ 参加者数（参加校数）

	令和4年度	令和5年度	増減
基礎編	283 人（29 校）	332 人（30 校）	+49 人（+ 1 校）
応用編	88 人（22 校）	96 人（21 校）	+ 8 人（▲ 1 校）

- ・ 参加生徒向けアンケート結果（一部抜粋）

「アドミッションポリシーの理解を深めることができた」：91.8%

【令和6年度に向けた変更、改善点等】

- ・ 高大連携推進員が企画する放課後・休日における講座等（「あなたの背中そっと押しますプロジェクト」）を、引き続き、オンラインも活用して実施するとともに、特に理系学部への興味・関心を広げる取組として高校での出前型の講座等を企画・実施するほか、高校生が大学生・大学教員と気軽に意見交換できる場としてメタバースを活用した交流機会を提供するなど、県内大学を知る機会を広く提供する。
- ・ 「しまね探究フェスタ」（2月）を島根県立大学浜田キャンパスで開催し、高校生が実際に大学を訪れ、大学の雰囲気に触れる機会を創出する。
- ・ 専門高校への理数教科の教員の配置について、常勤教員を5校から7校、非常勤教員を1校から2校にそれぞれ拡充して配置し、大学進学を目指せる学力の育成により進路選択の幅を広げる機会の充実を図る。

② 県内大学における高大接続事業

【目的と概要】

- ・ 県内大学のアドミッション部門が県教委と連携し、大学訪問や出張講義を実施。

【実績報告】

i) 大学訪問

	令和4年度	令和5年度	増減
島根大学	12件（11校）	7件（5校）	▲5件（▲6校）
島根県立大学	16件（15校）	14件（12校）	▲2件（▲3校）
	28件（26校）	21件（17校）	▲7件（▲9校）

※島根大学はアドミッションが窓口となるもののみ計上。

ii) 出張講義

	令和4年度	令和5年度	増減
島根大学	1件（1校）	2件（1校）	+1件（±0校）
島根県立大学	41件（13校）	25件（13校）	▲16件（±0校）
	42件（14校）	27件（14校）	▲15件（±0校）

※島根大学はアドミッションが窓口となるもののみ計上。

【令和6年度に向けた変更、改善点等】

- ・ 高大接続については、大学訪問・出張講義以外でも、後述の新たな取組・アクションも増加しつつあり、高大連携推進員の配置などで多様になってきているが、基盤となる大学訪問・出張講義の数については、引き続き件数を維持していく。

③ その他

【島根大学】

- ・ R5.10.25に教育・入試懇談会を開催し、島根県公立高等学校長協会、島根県

私立高等学校長会と「高校・大学を通じて育成すべきこれからの学力とは」をテーマに意見交換を行った。

- ・ R5. 10. 25に高大接続シンポジウムを開催し、全国の高校、島根県教育委員会、島根県教育庁等を対象に、「へるん入試の求める学びの力とは」をテーマとして、入学後の学修状況の追跡調査報告や入学生の語り等の発表や質疑応答を通して、へるん入試の鍵概念である「学びのタネ」の意義や課題を明らかにする試みを行った。
- ・ へるん入試の「専門高校入試」枠で入学しイキイキと学んでいる学生（工業高校、農林高校）によるメッセージ動画を作成し、HPで公開した
- ・ 地域について興味・関心を持つ高校生を対象に、地域志向型入試WEB面談を実施し、教員・職員との対話によって、地域への興味・関心や大学で学ぶことについて考えを深めるきっかけを提供した
- ・ R6. 2. 5にしまね探究フェスタ2023が島根大学で開催され、島根県教育委員会主催のもと、島根県内の高等学校及び特別支援学校高等部の生徒を対象に、互いの探究学習を共有しあう事でその学びの楽しさを知り意欲を喚起するとともに、各校の学習の質を高める機会とした。
- ・ R6. 3. 8に島根県高等学校理数科課題研究発表大会が島根大学で開催され、島根県高教連理数科教育研究科主催のもと、理数科の科目「課題研究」の実施にあたり、県内各理数科設置校の取組みの発表を通して、研究への達成感をもたせる場とした。主催者からの求めに応じ、本学教員からも審査員の派遣を行った。

【島根県立大学】

- ・ 専門高校の生徒向けに進路選択の可能性を広げてもらうためのキャリアパス冊子「ラブニール」の新版に向けて取材し、まずはデザイン・レイアウトを施した PDF データを作成した。冊子自体は翌年度に印刷することとし、対象高校の1、2年生を中心に県内全高校教職員に配布する予定。
- ・ 高大連携 人づくりプロジェクトとして、安来高校と情報科学高校の生徒を対象に、本学教員、本学学生、安来市の社会人等が交流しながら自分の未来と地域の未来を考えるキャリア講座「KENDAI 未来アトリエ」を実施した（計4回）。
- ・ 県内高校教員の要望に応じて生徒への探究学習の指導について、講義をおこなった。

④ ステージ総括と検証方法についての課題と対応

- ・ 令和5年度においては、これまで継続してきた高大連携事業に加え、高大連携推進員の増員による高大連携体制の強化のほか、新たに島根県教育委員会と大学が連携して、大学生を講師に学部・学科を紹介する講座など、高校生向けに県内大学の学部・学科の学びに関連する講座を実施した。

- ・ こうした連携事業の成果も徐々に表れつつあり、県内高校からの県内大学受験者数は、1,072 人（令和 4 年度試験）から 1,118 人（令和 5 年度試験）へと 46 人増加した。
- ・ 一方で、県内入学者数は 79 人の減少となり、県内入学率が低下する結果となった。

県内大学の受験者総数は 3,749 人（令和 4 年度試験）から 4,586 人（令和 5 年度試験）と 837 人増加しており、県外高校からの受験者の増加が影響したものと考えられる。

- ・ ステージ 1 の取組においては、県内高校の多くの生徒が県内大学への進学を希望している実態があり、そうした生徒の進路実現につなげるためにも、高大連携事業の取組をより強固に推進する。
- ・ また、島根大学においては、県内出身者の合格率が一般選抜に比べ高い状況にある特別選抜を拡充する方向であり、島根県立大学（浜田）では今後の入試制度の検証を行う。

(2) 島根の企業を広く知る

① K P I の達成状況

- ・ 「企業見学ツアー及び交流会の参加学生数」は、目標延べ 770 人（R 4：740 人）に対し、実績延べ 973 人（R 4：967 人）となり、目標を達成した。令和 5 年度は対面によるイベント開催を行い、多くの学生に県内企業を広く知る機会を提供した。

② 実施内容

- ・ 島根県商工労働部雇用政策課が各高等教育機関と連携し、以下の取組を実施した。

i) 企業見学ツアー

【目的と概要】

- ・ 学生に低学年次から県内の企業をよく知ってもらうため、各高等教育機関と連携し、学生が企業と交流するバスツアーを実施する。

【実績報告】

	令和 4 年度	令和 5 年度
島根大学	90 人（12 社）	125 人（13 社）
島根県立大学	35 人（8 社）	56 人（17 社）
松江高専	182 人（10 社）	194 人（12 社）
計	307 人（30 社）	375 人（42 社）

※数字は延べ数

【令和 6 年度に向けた変更、改善点等】

- ・ 企業見学バスツアーは低学年次からの人気が高いことから、より多くの学生が参加し、県内企業を知ってもらう機会を提供できるよう実施する。

ii) 学生×社会人交流会

【目的と概要】

- ・ 学生に低学年次から県内の企業をよく知ってもらうため、各高等教育機関と協力し、対面による学生と社会人との交流会を実施する。

【実績報告】

	令和4年度	令和5年度
島根大学	303 人 (24 社)	24 人 (55 社)
島根県立大学	23 人 (5 社)	255 人 (105 社)
松江高専	334 人 (17 社)	319 人 (17 社)
計	660 人 (46 社)	598 人 (177 社)

※数字は延べ数

【令和6年度に向けた変更、改善点等】

- ・ 各高等教育機関の講義や授業と連携した事業は参加者が多いため、引き続き講義や授業と連携した事業を実施し、参加した学生と企業の繋がりを作るとともに、様々な業種の企業を広く知ること、低学年次から特定の業種に限らず広い視野を持って就職先の選択に活かしてもらう。
- ・ 令和4年度まで島根大学で開催していた「地域トーク」の代替企画について、令和6年度も引き続き島根大学と連携を取りながら、学生と社会人との交流イベントの開催を検討する。

島根大学

【目的と概要】

- ・ 島根の暮らし、観光などの魅力を体感するとともに、島根県内で頑張る企業の見学や社会人の話を聞くことを通して地域や企業の理解を深めるため、学生と企業が出会える企業見学バスツアーを実施した。また、低学年次のうちから島根で働くことの魅力や仕事のやりがいなどを知るきっかけとするため、地元で働く若手社員等との交流会を実施した。

【実績報告】

- ・ 低学年次向けのバスツアーを計7回（5/27 出雲松江、6/24 出雲、7/15 大田、8/1 江津、9/29 安来、10/28 松江、11/25 出雲）開催し、延べ125人の学生が13社の企業を訪問した。また、11/8に島根大学OBOG交流会、2/16に業界研究会を開催し、延べ24人の学生が55社の企業と交流した。

【令和6年度に向けた変更、改善点等】

- ・ 企業見学バスツアーは低学年次からの人気が高いことから、より多くの学生が参加し、県内企業を知ってもらう機会を提供できるよう実施する。
- ・ 低学年次のうちから島根で働くことの魅力や仕事のやりがいなどを知る機会を提供することは、県内就職への意欲向上に繋がる可能性が高いことから、引き続き地元で働く若手社員等との交流会の実施を検討する。

島根県立大学

【目的と概要】

- ・ 低学年を主なターゲットとして複数コースのバスツアーを企画した。島根県の魅力や地元企業への理解を深めてもらうため、各地域の観光資源と主要企業をセットで巡るツアーとした。

【実績報告】

- ・ 【松江コース】12人、【出雲コース】5人、【安来コース】9人、【大田コース】6人、合計32人の学生が参加し、全コース合計で県内企業等13社（団体）にご協力いただいた。アンケートでは、全ての参加者が就職希望地域を島根県内あるいは島根県内外としており、そのうち90.5%がツアー参加後に地域への関心が高まったと回答があった。

【令和6年度に向けた変更、改善点等】

- ・ 令和5年度は夏季休暇中の平日に開催したことから、企業側にとって受入がしやすい一方で、県外出身の学生は参加しづらく、ツアーの日程による申込人数の差が大きかった。
- ・ 令和6年度は5月と6月の土日に1コースずつ実施し、夏季休暇中と比較し県外出身学生の参加しやすい日程とすることで、参加者の増加を見込む。

松江高専

【目的と概要】

- ・ 県内企業をバスで見学するツアーを開催し、地域企業を現地で学ぶことを行った。さらに、先進技術を有する県内企業と学生の交流会を学内で開催し、多数の学生が県内企業を知る機会を設け、相互に交流できるように意見交換を行った。

【実績報告】

- ・ 企業見学バスツアーおよび先進技術企業との交流会は対象を3年生として、インターンシップや就職活動前の企業研究や地域研究にも役立てるようにした。企業見学バスツアーは定員40人として、授業科目「ふるさと産業学」の主たる事業内容として位置づけ、4回の企業見学バスツアーを開催した。10月18日(水)、10月25日(水)、11月8日(水)、11月29日(水)に行った。見学会社は、松江、出雲にある製造系、IT系、建設業系の企業である。
- ・ 先進技術企業との交流会は3年生200人を対象として、6月26日(月)と2月6日(火)の2回実施した。6月26日は9社、2月6日は8社の企業より現役企業人に講演していただいた。

【令和6年度に向けた変更、改善点等】

- ・ 企業見学バスツアーおよび県内先進技術企業との交流会は、対象を就活を意識し始める前の3年生として、令和5年度と同様に実施する。県内外への移動も含め様々な見学を増やしつつ、新たな県内バスツアーなども連携機関と協議しながら、企画していく。

iii) ステージ総括と検証方法についての課題と対応

- ・ 県内企業を訪問するバスツアーや、地元で働く若手社員等との企業交流会等を実施し、多くの学生に企業を知る機会を提供することができた。一方で、イベントごとの応募数にばらつきがあり、定員を満たすものとそうでないものに分かれる。令和6年度も引き続き各高等教育機関と協力し、定員を満たしていないイベントについて定員を満たすための方策を検討し、参加した学生に県内企業に興味関心を持ってもらい、企業を広く知る機会にしてもらう。

(3) 関心の高い企業を深く知る

① K P I について

- ・ 「関心の高い企業を深く知る」においては参加学生数目標延べ 2,238 人（R 4：2,176 人）に対し、延べ 2,993 人（R 4：2,975 人）、参加企業数目標延べ 208 社（R 4：196 社）に対し、延べ 314 社（R 4：357 社）となり目標を達成した。

② 実施内容

- ・ 島根大学、島根県立大学、松江高専が以下の取組を実施した。

i) 島根大学

キャリアデザインプログラム、キャリアデザインプログラムプロジェクト

【目的と概要】

- ・ キャリアデザインプログラム（以下、CDP）は、自身の専門性を生かしたキャリアを自らデザインして築き上げる力を身につけられるよう、正課の授業と正課外の様々な活動を組み合わせ、実践的に学ぶ特別教育プログラムとして実施する。CDPではキャリア科目やセミナーの他、学生が主体的に企業と関わり、試行錯誤しながら課題解決のためのチームワークや同意形成などを学ぶプロジェクト活動も重視する。

【実績報告】

- ・ 本プログラムは前期と後期の初めに1年生を対象に履修者の募集を行っている。令和5年度の履修者（実数）は、1年生～4年生の合計で1,466人（R 4：1,444人）となり、年度目標の1,164人（R 4：1,164人）を超えた。セミナーの他、履修者が参加するプロジェクトを実施し、令和5年度は10件のプロジェクトを立ち上げ、延べ60人（R 4：164人）の学生が企業等と実践的なプロジェクト活動を行った。

【令和6年度に向けた変更、改善点等】

- ・ 平成29年4月に構築したCDPに参加する学生数は、学生への周知を積極的に行っている成果もあり、目標値を超え、年々増加傾向にある。
- ・ 令和6年度入学生より既存のCDPとは異なるプログラムが開始される予定となるため、令和6年度については2～4年生を対象に本プログラム参加学生のフォローをしていく。

地域人材育成コース、地域人材育成コースプロジェクト

【目的と概要】

- ・ 地域人材育成コースは、卒業後に島根県・鳥取県等での活躍を志す学生を選抜する入試を全学部で実施し、学部横断的な教育を行うコースとして平成 28 年度から開設されている。本コースでは、学部横断型の正課教育・準正課教育（プロジェクト活動等）で「自らの専門性と多様な人材との協働を軸にした高い課題解決能力」を身につけることを一つの目的としている。

【実績報告】

- ・ 地域人材育成コース生は「へるん入試」等の拡充が行われ、1～4 年生をあわせて 310 人の学生（実数）が所属している。本コースでは、中海・宍道湖・大山圏域市長会と連携した授業「イノベーション創成基礎セミナーⅠ」、「イノベーション創成基礎セミナーⅡ」を実施した。またコース生だけが参加する 10 つのプロジェクト活動（R 4：7 件）を実施した。
- ・ 本コースに所属する松江キャンパスの 5 期生（就活学年）の就職状況は就職決定者 22 人のうち、17 人が山陰地域に就職した（山陰地域就職率 77.3%）。このうち島根県内就職は 12 人となった。

【令和 6 年度に向けた変更、改善点等】

- ・ 令和 6 年度はさらに多くの企業とプロジェクトを企画し、学生と企業等が関わりを持ちながらその魅力を知る機会を提供していく

地域人材育成コース、地域共創インターンシップ

【目的と概要】

- ・ 地域人材育成コースは、「学びの種」や地域に貢献したいという志を持って入学してきた学生が、自身の身につけたジェネリックスキル（汎用的な技能）と専門性を活かして、地域のステークホルダーと共に地域や企業の課題解決に挑戦し、地域の未来構築に向けて自ら提案・実践していくための力を養うことを目的の一つとしている。
- ・ 地域共創インターンシップは、地域人材育成コースに所属する 2～3 年を中心として実施する中長期(60 時間または 10 日程度)インターンシップであり、学生がチャレンジしたい事柄に応じ、適切なインターンシップ先を選定してオーダーメイドでプログラムを構築する。これにより、学生がより主体的、自律的にインターンシップに取組、専門性を活かす内容として設計している。

【実績報告】

- ・ 令和5年度は20社（R4：19社）に12人（R4：16人）の学生が参加した。

【令和6年度に向けた変更、改善点等】

- ・ 学生の希望に応じたインターンシップを実施しており、受け入れ先企業との調整を含めて時間を要するプログラムとなっている。今後も丁寧なマッチングを図ることで、インターンシップの「質」の向上を図っていく。

県内企業等研究活動支援事業（公募による学部企画支援）**【目的と概要】**

- ・ 県内企業等探求活動支援事業は、学生のキャリア教育の一環として、学部が企画及び実施主体となり、島根大学の学生が県内企業等について深く知る取組を支援することを目的として実施する。

【実績報告】

- ・ 7件の学内公募企画（教員提案企画）を採択し、参加学生数297人、参画企業数は36社となった。
- ・ ステージ目標の「企業を深く知る」に対し、企業・団体と連携した調査・研究など、事業目的に沿う少人数制の内容となる企画をより多く採択し実施した。

【令和6年度に向けた変更、改善点等】

- ・ 令和5年度に実施した事業内容を教員に共有することで、事業の目的への理解を深めてもらい、教員からの積極的な事業提案を促進する。また、各学部長等からの組織的な働きかけを依頼することで、学部単位に加えて教員個々が学生と企業が関わる企画の立案を促していく。

総括と検証方法についての課題と対応

- ・ 複数の取組を体系化した施策（CDP/地域人材育成コース）における参加者数は昨年度を超える人数の学生を獲得することができ、4学年で1,466人となり、低学年時から地域と一体になったキャリア教育を受ける学生数が順調に増加してきている。
- ・ CDP/地域人材育成コース生個人の修学目的に合わせ、学生が企業等と連携しながら地域課題解決のための手法等を実践的に学ぶプロジェクトや地域共創インターンシップなど、学生側、企業側双方からの視点で、企業の現場に長期間触れる様々な機会を提供し、企業をより深く知る取組を実施できた。
- ・ 令和4年度から、前期と後期の履修登録時に就職希望地を入力するように変更。希望地の変化についての定量的な検証を開始した。
- ・ 2年生を対象に進路支援相談員が面談を実施。1年生時の「就職希望地」から希望先が変わった学生に対して理由をヒアリングし、就職希望地の意思決定プロセスの変化について調査する。

ii) 島根県立大学

共同研究事業

【目的と概要】

- ・ 共同研究事業の一つとして、学内公募の地域貢献推進奨励金事業が挙げられる。学生主体の多様な地域貢献活動を通して、島根県内の地域課題解決に向けた提言や提案を行い、学生の課題発見・解決能力を育成しながら、より広域な地域貢献活動を促進することを目的としている。

【実績報告】

- ・ 連携企業等数 132 社（R 4：131 社）、参加学生延べ 393 人（R 4：451 人）であった。その中でも、前年度に引き続いて 4 年目となる、地元産の干物を使用した加工品の開発と商品化に取り組んだプロジェクトでは、「試食をともなう製品のマーケティング活動では、調査協力者の生の声を聞くことができ、活動の励みになった」「自分たちが開発した加工製品の試食販売エリアを、県外まで広げることができた」などの効果が成果報告等から明らかとなった。

【令和 6 年度に向けた変更、改善点等】

- ・ 新型コロナウイルスの影響をほぼ受けることなく活動を進めることができるであろうと考えられることから、さらに活発な各企業との連携の取組を進めていく。引き続き、連携企業等との密な情報共有を図っていくことが重要である。

長期実践型インターンシップ

【目的と概要】

- ・ 県内企業や行政機関と協力して推進してきた「長期・事業創造型インターンシップ」を三省合意に基づき令和 5 年度より適用されるインターンシップの定義の明確化に合わせて「長期実践型キャリア教育」と改称し、主として 2・3 年次の学生を対象としたキャリア教育をキャンパス横断的に展開している。

【実績報告】

- ・ 令和 5 年度は県内の企業・団体 7 機関（R 4：4 機関）と長期実践型キャリア教育の取組を実施し、25 人（R 4：20 人）の学生が参加した。取組の実施に際しては、大学と各機関の間で取組内容や計画について綿密な協議や手続きを取り交わし、学生との面談も充実させ、サポート体制の構築と質の高い学びの共創に重点をおいた。

【令和6年度に向けた変更、改善点等】

- ・ 学生と企業へのフォロー体制は、オンラインコラボレーションツールを導入し、企業・団体、大学教職員、学生の3者でリアルタイムに状況が共有できる体制を構築しており、さらに活用を進める。また、引き続き事業所間で交流会を開催したり成果報告会では他事業所の参加を受け付けたりと実施内容の向上に取り組む。

しまね地域マイスター課程

【目的と概要】

- ・ しまね地域マイスターとは、島根地域のさまざまな分野において課題解決能力をもった学生を認定する本学独自の制度である。卒業時には、自ら地域の課題に対して向き合い、考え、課題解決に向けた行動力のある人材として、社会に飛び出すことができることを目標にしている。

【実績報告】

- ・ 令和5年度参加者（実数）は、浜田キャンパス5人（R4：16人）、出雲キャンパス11人（R4：4人）、松江キャンパス5人（R4：8人）の合計21人（R4：28人）となった。

【令和6年度に向けた変更、改善点等】

- ・ 浜田キャンパスにおいては、学部再編したことにもなあって、令和6年度よりしまね地域マイスター制度に変更が生じることから、さらにフォロー体制を充実させていく。

総括と検証方法についての課題と対応

- ・ 前述の通り、島根県立大学では地域との共同研究の推進を通じ、各専門領域の強みを活かした教員及び学生と地域との関わりを全学的に強化した。中には、実事業・実ビジネスの進展に寄与する取組も多く、高等教育機関の研究機能・研究資源を地域に還元することができた。また、多数の地域との連携教育科目が設定・開講され、学生が地域をフィールドに、自身の専門領域に関する学びを積み重ねており、この積み重ねが「しまね地域マイスター課程」の共通基盤となっていることを付記しておく。一方、これら正課科目を中心とした取組とは異なる単位認定のない「長期実践型キャリア教育（旧：長期実践型インターンシップ）」の実施も拡大しており、学生の地域での学びの幅が広がっている。

これら、共同研究、正課教育、単位認定のない形での地域協働教育と大きくは3つの取組を推進してきたが、これら企業／団体等の学外機関と連携した取組と学生の県内就職意識の醸成について、当年度から各キャンパスにおいて学生支援を担当する職員が中心となって、県内就職をした学生に対し半構造化インタビューを実施した。

その結果、島根県内での就職意志を決定づける要因となる教育活動の特定はできないものの、特に島根県外出身者で県内就職を決断したケースにおいては、学生時代に様々なチャネルで地域との関わりを密に持っていたことが優位に働いている傾向が見られた。

本年度の検証では質的な調査を中心としているが、この「地域との関わりの密度」が今後の検証の鍵となると考えている。島根県内での就職を選ぶ、すなわち卒業後もこの地域に関わり続けたいという学生を増やしていくためにも、現在のような地域と協働した取組を推進し同時にきめ細やかなサポート体制の実現に邁進する。

iii) 松江高専

ふるさと産業学

【目的と概要】

- ・ 地域創生の人材育成が求められる近年、地域社会、特に地域産業を担う地元企業の情報を本校学生が得る機会は少ない。そこで、製造業を中心とした地元企業を知することを目的として企業見学バスツアーを実施し、この内容をレポートおよびプレゼンテーションに纏める授業を実施する。対象学年は3年生として、インターンシップや就職活動前の学年で実施することで、地域産業や地元企業の業界研究に効果がある。

【実績報告】

- ・ 企業見学バスツアーは、定員は1クラス分に相当する40人とし、10月18日(水)、10月25日(水)、11月8日(水)、11月29日(水)の計4回を実施した。
- ・ 見学会社は、松江、出雲にある製造系、IT系、建設業系の企業である。
- ・ いずれの企業でも70から100分の見学時間を取り、企業紹介から工場・社内見学を経て意見交換を行った。11月17日(水)の授業では、プレゼンテーションを行い、学生視点から見た企業の特徴やバスツアーの感想を報告した。

【令和6年度に向けた変更、改善点等】

- ・ 企業見学バスツアーの取組は令和3年から継続して実施している。学生の地域企業への理解が深まっており、令和6年度も継続して実施する計画である。定員は1クラス分に相当する40人として令和5年度と変更せず、平日の午後半日で見学が可能である安来、松江、雲南、出雲のエリアで実施する。実施回数も2回、企業数も合計8社を予定している。事前に学生から要望を伺い、学生の希望に沿った企業先を選定する。

地域社会とエンジニア

【目的と概要】

- ・ 地域企業に所属する企業人を学外講師から企業の現状などを講演してもらい、地域や産業界の現状を理解することを目的とする。
- ・ 企業で活躍する企業人を学外講師として招聘し、オムニバス形式での講義で、この地域の歴史・文化的特徴及び産業の現状や今後の展開や、実践学問、現場の声を提供する。本科目を履修することにより、地域社会、地域産業に対する幅広い見識を身につけることができる。

【実績報告】

- ・ 製造系企業4社ならびにIT系企業1社（以上県内企業）とコンサルティング関連企業1社（本社・東京都）による企業視点からの講演を開催した。その他にも、NPO法人、国土交通省、室蘭工業大学、益田市、島根県産業技術センターから講師を招いて、多様な視点から地域産業を学んだ。4年次の5学科198人（R4：183人）の学生（実数）が履修し、それぞれの講演ごとに報告書の提出を課した。なお、学外講師による講演のほか、しまね大交流会への参加および、一般社団法人松江テクノフォーラム主催の企業紹介への参加を課している。

【令和6年度に向けた変更、改善点等】

- ・ 本科目は島根県商工労働部産業振興課と連携し、講師の派遣依頼を行っている。令和6年度も継続し、同規模での開催を予定している。令和6年度も通年科目として実施する。産官で様々な分野の最前線で活躍する現役エンジニアに講師をお願いすることが可能となるため、学生が地域社会や産業界の最新情報を得ることができ、今後の就職活動に役立つため、授業への積極的な参加が期待できる。

地域インターンシップ

【目的と概要】

- ・ 地域の職場での就業体験を通じ、職業に必要な技術や知識、将来の職業観、社会的マナー等を学ぶことにより、現状での自らの技術や知識と社会的マナー等の改善点を見出すことや、地域企業の理解を深め進路選択に生かすことを目的とする。県外企業でも単位化できる「校外実習」とは別に、県内企業でのインターンシップに参加することにより、5日以上プログラムを行うことで1単位を履修することができる。5日以内のプログラムでは、単位化されない。

【実績報告】

- ・ 県内55社（R4：53社）のインターンシップに4年生を主として102人（実数、R4：89人）の学生が参加した。昨年度からコロナの影響がなくなり、多くの学生が対面式のインターンシップに参加した。この数は校外実習を含まないが、校外実習でも県内の企業を選択するものがあるため、実数はもう少し多くなる。アンケート結果を見ると、様々な企業で特色あるインターンシップを経験し、高度な技術や職場の雰囲気学ぶことができ、その業界の特徴を学んで就職活動に生かすものたちが多くいた。また10月から12月の期間に各学科で報告会を開催して、学科教員が成績評価を行った。

【令和6年度に向けた変更、改善点等】

- ・ 令和5年度は全国での「校外実習」も対面式での参加を認めることとなり、また従来通りのオンラインも受講可能になっている。地域インターンシップも含めて94%の学生が、何かしらのインターンシップに参加した。また令和3年度以降、ジョブカフェしまねや島根県中小企業団体中央会の補助等を活用して地域インターンシップに参加する学生もあり、令和6年度もこの体制を維持し、学生の積極的な参加を後押ししていく。

総括と検証方法についての課題と対応

- ・ 本ステージの事業としてこれまで継続している上記3事業を令和5年度も中止することなく実施することができた。また、多くの学生が県内企業への地域インターンシップに参加した。またこれとは別に校外実習科目としても県内企業でのインターンシップに参加した学生も多い。
- ・ 4年次の「地域社会とエンジニア」はほぼすべての4年生が履修しており、学生に地元企業を知り、興味を持ってもらえる機会が与えられていると考えられる。参加者数等については授業での事業実施のため大幅な増減はない。
- ・ 今年度実施したアンケートでは、就職内定者のうち、49%程度が県内への就職をある程度積極的に検討していた。この中で、上記3事業の内、県内企業の就職を決めた理由としては地域インターンシップと地域社会とエンジニアの影響が大きい。4年生の後期に近づくにつれて、興味と関心が高まっていると考えられるため、通年科目とした効果が出ていると考えられる。一方で3年生での事業は効果が薄い、早期に経験させることの意味合いはあると考えられる。ただ、インターンシップを県内企業で行った者も、その企業を就職先として考えていない場合が多く、県内企業に限らず、県内に住むということについて学生がどのように考えているか、明確にするような内容を考えていきたい。

iv) しまね大交流会

【目的と概要】

- ・ しまね大交流会では以下の目的を定め、ステージ3に留まらず、コンソーシアムの目的に対し、複合的、総合的に資する展示会として開催している。
 - 学生・生徒が、地域の企業・行政・NPO等から社会の在りようを学び、また、学生自身の研究や学びを発信する場を広く提供することにより、しまね産学官人材育成コンソーシアムの協働体制のもと、自身の生き方・働き方を主体的に考え、地域を支え、地域で活躍する人材の育成を図る。
 - 島根県を中心とする企業・行政・NPO等が、それぞれの良さや特徴的な取組を発信することを通じ、学生・生徒にとって魅力ある生き方や働き先の周知を図る。
 - 多種多様な出展者同士が交流することにより、イノベーションの創出を図る。
- ・ 令和5年度においては、令和4年度に引き続き「対面形式」のみで11/5（日）に開催した。
- ・ 大交流会の効果測定として、参加学生に対し、事前・事後アンケートを実施し、「島根には魅力的な仕事がある」「島根で働きたい」「島根で暮らしたい」の3点について検証を行った。

【実績報告】

- ・ 出展ブース数 139 コマ（企業・団体・自治体：113、教育機関：26）、参加者数は延べ 1,444 人、大人（出展者含む）：557 人、若者：887 人の参加があった。
- ・ 事前・事後にアンケートでは、「島根には魅力的な仕事がある」への肯定回答率は 61%から 87%へ、「島根で働きたい」への肯定回答率は 48%から 58%へ、「島根で暮らしたい」への肯定回答率は 53%から 60%へ、それぞれ増加し、大交流会の有効性が示された。
- ・ 事前研修として、しまね大交流会 2022 でブース投票が上位となった企業から出展時の工夫等をヒアリング調査し、調査結果を事前説明会で出展企業に共有した。

【令和 6 年度に向けた変更、改善点等】

- ・ プロフェッショナルセミナー中に長時間立っていることで気分が悪くなる参加者が出たことから、椅子の配置や休憩スペースの設置等のレイアウト図の変更について令和 6 年度の実行委員会にて検討を行う。
- ・ 高校生の参加・ターゲットとしたプログラムについて、高校生の参加動員の負担、進学や探求学習の成果発表の場などが別途、充実されてきていることから、令和 5 年度に引き続き検討し、判断することとした。
- ・ 大卒採用の意欲が高いが、資金・人的リソースの不足で出展が難しい企業に対して、組合やグループ出展などで出展を行う経済団体推薦ブース枠の新設について令和 6 年度の実行委員会にて検討を行う。

(4) 企業を選択する

① K P I について

- ・ 「インターンシップ等受入企業研修会への参加企業数」は、目標延べ 190 社（R4：180 社）に対して実績延べ 275 社（R4：306 社）と目標を達成した。対面及びオンラインでの開催方法により、企業が研修会に参加しやすくなるよう工夫した。
- ・ 「県内事業所へのインターンシップ等参加学生数」は、目標延べ 488 人（R4：476 人）に対して、実績延べ 611 人（R4：671 人）と目標を達成した。各高等教育機関が学生向けに実施したガイダンスやセミナーなどを通して、学生にインターンシップ等の重要性を説明することにより、学生のインターンシップ等への参加促進を図った。

② 実施内容

- ・ 島根県商工労働部雇用政策課、(公財) ふるさと島根定住財団及び各高等教育機関が以下の取組を実施した。

i) インターンシップ等説明会（オンライン型）

【目的と概要】

- ・ インターンシップ等就業体験の参加に興味のある、参加や実習先の選択に迷っている学生にインターンシップ等の参加を促すため、インターンシップ等プログラムの説明や企業担当者との交流の場を設ける。

【実績報告】

6/2 参加学生数延べ 26 人（うち、県内学生数 10 人） 参加企業延べ 9 社
12/28 参加学生数延べ 35 人（うち、県内学生数 11 人） 参加企業延べ 16 社
（合同企業説明会（対面型）にあわせて対面実施）

R5 計 参加学生数延べ 61 人（うち、県内学生数 21 人） 参加企業延べ 25 社

※R4 参加学生数延べ 95 人（うち、県内学生数 14 人） 参加企業延べ 50 社

アンケートでは 96.3%の学生が「参加の満足度が高い」と回答

【令和6年度に向けた変更、改善点等】

- ・ 学生と企業が交流したり参加しやすい内容とし、インターンシップ等参加の理解と意欲を引き出すことで、インターンシップ等の申込に繋げる。

ii) しまね短期仕事体験

※【名称変更】旧しまね学生インターンシップ

【目的と概要】

- ・ 学生が短期仕事体験により県内の企業や仕事への理解を深め、県内企業で働く人の魅力を知ること、県内企業が就職の選択肢となることを目的とする。
- ・ 学生が短期仕事体験に参加しやすい時期（8月～9月末までの夏期と2月～3月末までの春期）に実施し、できるだけ多くの学生が就業体験できるように申込学生と受入申込企業とのマッチングを行う。

【実績報告】

- ・ 夏期：参加学生数延べ318人（うち、県内学生数187人）
春期：参加学生数延べ88人（うち、県内学生数51人）
合計：参加学生数延べ406人（うち、県内学生数238人）
※R4 夏期：参加学生数延べ362人（うち、県内学生数213人）
春期：参加学生数延べ101人（うち、県内学生数53人）
合計：参加学生数延べ463人（うち、県内学生数266人）
- ・ アンケートでは、短期仕事体験先企業を志望する学生の割合が31.0%（R4：22.8%）となり、参加前に比べて13.3%（R4：10.2%）高まった。

【令和6年度に向けた変更、改善点等】

- ・ 三省合意改正の内容に対応した短期仕事体験を準備するとともに、低学年次からの参加を促していく。

iii) しまね学生インターンシップ

※【新規】

【目的と概要】

- ・ 学生が将来の職業選択及び適性を見極めるとともに、県内企業への理解を深め県内就職を促進するため、県内企業が実施するインターンシップの情報をジョブカフェしまねサイトに掲載し、学生への周知宣伝を行うことで県内企業でのインターンシップ実施を促す。

【実績報告】

- ・ 実施時期：8月～9月末
- ・ 参加学生数 延べ85人（うち、県内学生数33人）
- ・ 令和5年度に参加をした学生が参加をした企業の選考に進んだ状況の調査は令和6年度に実施予定。

【令和6年度に向けた変更、改善点等】

- ・ 三省合意改正の内容に対応したインターンシップについて、引き続き学生への周知宣伝を行うことで参加する学生の増加に繋げる。

iv) 長期有償仕事体験

【目的と概要】

- ・ 就職活動を迎える各高等教育機関に在籍する学生を対象に、実践に近い仕事体験を長期間実施することにより、参加企業への志望度の向上及び入社後のミスマッチの防止を図る。

【実績報告】

- ・ 島根県商工労働部雇用政策課
実習期間：11/1～12/28 採用学生数：4人（週2～4日）
- ・ 株式会社エブリプラン
実習期間：10/25～12/28 採用学生数：1人（週3日）
- ・ 株式会社ジュンテンドー（島根県立大学）
実習期間：6月～12月 採用学生数：1人
- ・ NPO法人 てごねっと石見（島根県立大学）
実習期間：6月～3月 採用学生数：7人
- ・ 島根電工株式会社（島根県立大学）
実習期間：4月～9月 採用学生数：4人
- ・ トップ金属工業株式会社（島根県立大学）
実習期間：4月～11月 採用学生数：5人
- ・ カナツ技建工業株式会社（島根県立大学）
実習期間：6月～11月 採用学生数：2人
- ・ 安来市役所（島根県立大学）
実習期間：7月～10月 採用学生数：6人
- ・ R5計 参加学生数：30人 参加企業数：8社
※R4 参加学生数：25人 参加企業数：8社

【令和6年度に向けた変更、改善点等】

- ・ 令和6年度も長期有償仕事体験への参加を希望する学生や企業に参加の機会を提供し、県内就職の促進を図る。

v) 企業見学バスツアー

【目的と概要】

- ・ 就職後のイメージを掴み、魅力ある県内企業の理解を深めるため、実際に働く人との交流や働く場所を学生が見学する。
- ・ 1回当たり2～3社を訪問。1社70～90分程度。

【実績報告】

- ・ 島根大学：3回（参加学生数：延べ5人 訪問企業数：7社）
※R4 8回（参加学生数：延べ26人 訪問企業数：18社）

- 11/29 参加学生数：2人 訪問企業数：3社
- 12/1 参加学生数：2人 訪問企業数：2社
- 12/7 参加学生数：1人 訪問企業数：2社
- ・ 島根県立大学：1回（参加学生数：延べ5人 訪問企業数：3社）
- ※R4 1回（参加学生数：延べ8人 訪問企業数：3社）
- 9/27 参加学生数：5人 訪問企業数：3社
- ・ アンケートでは、「実際に働いている方々の様子や仕事内容を知って、より具体的に働き方を考えることができた」「企業の裏側を見ることができて魅力的だった」「HPを見るだけでは分からない社員の実際の働き方などを聞くことができた」等のコメントがあった。

【令和6年度に向けた変更、改善点等】

- ・ 島根大学生を対象としたバスツアーは、参加を希望する学生がいなかったため全9コース中6コースが中止となったことを踏まえ、令和6年度はツアーの実施件数を減らすとともに、代替イベントとして県内企業と就活生が交流できるイベントの実施について島根大学と検討する。
- ・ バスツアーの内容については、企業説明のみにとどまらず、現場などでの具体的な仕事の様子や必要な知識などを知ることができる内容で実施する。

vi) 学生×社会人交流会

【目的と概要】

- ・ 県内企業に就職した後の生活をイメージしてもらうため、多くの学生が就職活動を考え始める時期に、県内大学から県内企業に就職したOB・OGとの交流会を実施する。

【実績報告】

- ・ 島根大学：1回
- 11/8 参加学生数：29人 参加企業数：5社
- ※R4 参加学生数：19人 参加企業数：5社
- ・ アンケートでは、「OB・OGの方がなぜ島根で就職しようと思ったのかを聞くことができた」「実際に働いてからの様子や学生時代の話を聞くことができた」「島根の魅力や島根で働くやりがい等を知ることができた」等のコメントがあった。

【令和6年度に向けた変更、改善点等】

- ・ 対面での実施を基本方針とした上で、引き続き島根の魅力や島根で働くやりがい等が学生に伝わるような企画内容を検討する。

vii) 学生と企業の交流会（対面型）

【目的と概要】

- ・ 学生が就職活動を考え始める時期に県内企業に関して理解を図るため、多くの県内企業の担当者が会社概要、仕事内容、過去の求人状況や業界の状況を学生に説明する交流会を開催する。

【実績報告】

- ・ 12/28 参加学生数（県外学生含む）：延べ 346 人 参加企業数：149 社
※R4 参加学生数（県外学生含む）：延べ 266 人、参加企業数：170 社

【令和 6 年度に向けた変更、改善点等】

- ・ しまね大交流会と連携をして積極的に周知宣伝を行い、参加する学生の増加に繋げる。

viii) 就活生向け「しまね 1 D a y 仕事体験」

【目的と概要】

- ・ 多くの学生が就職活動を考え始める時期に、県内企業に関する理解を深めてもらうため、県内企業が実施するしまね 1 Day 仕事体験の情報をジョブカフェしまねサイトに掲載し、学生への周知宣伝を行うことで県内企業での仕事体験を促す。

【実績報告】

- ・ 実施時期：10 月～翌年 2 月末
- ・ 参加学生数：延べ 86 人（うち、県内学生数 37 人）
※R4 参加学生数：延べ 191 人（うち、県内学生数 103 人）
※R5 から集計方法を変更（R4 までは企業へのアンケート、R5 からジョブカフェしまねへの申込数を計上）
- ・ 令和 4 年度に参加をした学生の 57.7%が参加をした企業の選考に進んだ。令和 5 年度に参加をした学生の状況調査は令和 6 年度に実施予定。

【令和 6 年度に向けた変更、改善点等】

- ・ 効率的に参加できることなどを積極的に周知宣伝し、参加する学生の増加に繋げる。

ix) 業界研究会

【目的と概要】

- ・ 学生に県内企業との接点を創出することを通して、業界研究の場を提供することにより、県内企業への就職を促進する。

【実績報告】

- ・ 島根大学：1回
2/16 参加学生数：延べ72人 参加企業数：50社
※R4 1回（参加学生数：延べ78人 参加企業数：39社）
- ・ 島根県立大学：2回（参加学生数：延べ103人 参加企業数：55社）
浜田キャンパス：2/14 参加学生数：40人 参加企業数：24社
松江キャンパス：2/18 参加学生数：63人 参加企業数：31社
※R4 1回（参加学生数：延べ97人 参加企業数：32社）
- ・ アンケートでは、「今まで聞いたことのない企業の話を知ることができた」「実際に働いている方の話を聞くことができ参考になった」「島根県の企業をいろいろ調べていきたいと思った」等のコメントがあった。

【令和6年度に向けた変更、改善点等】

- ・ 実施時期の見直しも検討しながら、より多くの学生が参加できるよう各高等教育機関と協力して実施する。

x) 合同企業説明会（オンライン型）

【目的と概要】

- ・ 多くの学生が就職活動を考え始める時期に、県内にも魅力のある企業がたくさんあることを知ってもらうため、県内企業の紹介動画をジョブカフェしまねのサイトで公開する。

【実績報告】

- ・ 視聴回数約30千回（令和5年10月～令和6年3月） 参加企業数：210社
※R4 約34千回 参加企業数：190社

【令和6年度に向けた変更、改善点等】

- ・ 各種広報媒体で積極的に周知宣伝を行い、参加企業数と視聴数を増加させて県内企業と学生の出会いを促し、県内就職の選択へ繋げる。

xi) 合同企業説明会（対面型）

【目的と概要】

- ・ 採用情報解禁の時期に学生の県内企業への就職活動を支援するため、多数の県内企業を集め、県内企業の概要、採用計画等の説明会を開催する。

【実績報告】

- ・ 3/2 参加学生数（県外学生含む）：延べ 273 人 参加企業数：198 社
※R4 参加学生数（県外学生含む）：延べ 258 人 参加企業数：240 社

【令和 6 年度に向けた変更、改善点等】

- ・ 県内大学キャリアセンターと連携して積極的に周知宣伝を行うことで、参加学生の増加に繋げる。

xii) インターンシップ等受入企業向け研修会（オンライン）

【目的と概要】

- ・ 県内企業の経営者、採用担当者等を対象に、インターンシップ等プログラムの改善等、採用力向上のための効果的な取組について学ぶセミナーを実施する。

【実績報告】

- ・ 6/28 参加企業数：65 社
- ・ 11/9 参加企業数：27 社（対面実施）
- ・ R5 計 参加企業数：92 社
※R4 参加企業数：104 社
- ・ アンケートでは、「具体的な事例を知ることができ、イメージができた」「プログラムの組み立て方を考えることができた」等の意見があった。

【令和 6 年度に向けた変更、改善点等】

- ・ インターンシップ等の受入については企業ごとに取組内容に差があるため、レベルに応じた内容で行うとともに、対面でグループワーク等も行うことにより、実際の取組に活かしてもらいやすくするなど、プログラムの質の向上を図ろうとする企業の取組を支援していく。

③ ステージ総括と検証方法についての課題と対応

- ・ 島根県商工労働部雇用政策課がジョブカフェしまねや各高等教育機関と協力し、インターンシップ・仕事体験や学生と企業との交流会などを通して、多くの学生に企業を選択する機会を提供することができた。
- ・ アンケート結果によると、各イベントに参加する前と参加した後で、県内就職に関する意識が向上しており、本事業による効果があった。
- ・ 令和6年度も引き続き、学生のニーズに対応したインターンシップ等を実施すること、インターンシップ等の「量」拡充やプログラムの「質」向上を図っていくことで、学生が県内企業を選択する機会を広く提供し、県内就職を促進する。

4. その他の取組

(1) 成果報告会（協働教育フォーラム）

【目的と概要】

- ・ コンソーシアム事業の取組を構成団体や賛助団体に報告して水平展開することを目的に毎年開催。令和5年度においては「みんなで考えよう！令和5年度スタートの新たなインターンシップ等」をテーマに三省合意の改正を受けて今後のあり方が大きく変わっていくインターンシップ等について、改めて改正ポイントを確認し、事前アンケート調査に基づいた Q&A、山陰地域の企業で実施された好事例等の情報提供を行った。

【実績報告】

- ・ オンラインで開催し、33 社（36 名）の参加があった。

(2) キャリア支援に関するアンケート調査

【目的と概要】

- ・ キャリア支援について、より効果的な支援策の構築、情報提供方法などの改善につなげるため、就職活動を終えた最終学年の学生を対象にアンケート調査を行った。島根大学、島根県立大学の学生で、インターンシップ・就職活動を行った最終学年対象（医学、看護、進学は対象外）

【実績報告】

- ・ 回答者数 285 名
島根大学 221 名、県立大学 64 名
学部 4 年 243 名、短期大学部 2 年 4 名、大学院 2 年 38 名

【アンケート分析結果】

別紙参照

5. 委員会等の活動について

(1) しまね大交流会実行委員会

【目的】

- ・ しまね大交流会の企画・実施を行う。

【開催状況】

- ・ 第1回：6/20、第2回：8/23、第3回：10/26、第4回：12/5

【活動状況（検討内容）】

- ・ 委員会を4回開催し、しまね大交流会を昨年度に引き続き「対面のみ」で実施することを決定・実行した。また事前・事後の意識調査を実施し、大交流会の有効性を検証した。
- ・ しまね大交流会 2022 でブース投票が上位となった企業から出展時の工夫等をヒアリング調査し、調査結果を事前説明会で出展企業に共有した。
- ・ web ツール「notion」を活用し、しまね大交流会特設ページを開設。事前に大交流会の概要を、出展者および参加者に提供した。
- ・ 11/5（日）当日は出展企業・団体 113 社、若者 887 人、大人 557 人（出展者含む）計 1,444 人が参加したほか、産学連携、高校生向けとして各高等教育機関から 26 ブース出展があった。
- ・ 事前事後アンケートを実施し、大交流会参加による「島根で暮らしたい」「島根で働きたい」「島根には魅力的な仕事がある」の3点について意識変化を測定し、いずれもポジティブな変化が認められた。

【今後の課題と対応】

- ・ 今後の課題として、1）会場レイアウトについて（椅子の配置、休憩スペース含む）、2）当日の会場におけるイベント内容の見直し（高校生を対象とするプログラム含む）などが指摘され、令和6年度の改善点とした。

(2) インターンシップ等推進委員会

【目的】

- ・ インターンシップ等の充実に向け、関係機関での検討を行う。

【開催状況】

- ・ 第1回：7/7、第2回：12/26 書面、第3回：2/9

【活動状況（検討内容）】

- ・ 三省合意改正を踏まえたしまね学生インターンシップ、しまね短期仕事体験、しまね1Day 仕事体験、長期有償仕事体験の実施状況を確認した。
- ・ インターンシップ等の「量」拡充の取組として、下記の実施状況を確認した。
 - ① 各高等教育機関でガイダンスなどを実施し、学生にインターンシップ等の重要性を説明
 - ② ジョブカフェしまねや島根県中小企業団体中央会でタイプ類型に応じたインターンシップ等を実施
- ・ インターンシップ等の「質」向上の取組として、下記の実施状況を確認した。
 - ① プログラムチェックシートを作成し、企業のセルフチェックによる改善を推進
 - ② ジョブカフェしまねでインターンシップ等の経験度合に応じた企業向けセミナーを2回開催

【令和6年度に向けた取組、改善点等】

- ・ インターンシップ等の「質」向上に向けた下記取組を実施する。
 - ① ジョブカフェしまねでインターンシップ等の改善・強化セミナーを年2回実施
 - ② 各高等教育機関、ジョブカフェしまね等で取り組んでいるインターンシップ等の好事例を共有
 - ③ インターンシップ等実施企業に対するプログラムチェックシートの活用促進
- ・ インターンシップ等の「量」拡充に向けた下記取組を実施する。
 - ① 各高等教育機関、ジョブカフェしまね、島根県中小企業団体中央会で学生をインターンシップ等に促す取組や参加企業の増加に向けた取組を実施
 - ② しまね短期仕事体験について、夏期の実施期間を原則3日以上に短縮して学生や企業の参加を促すとともに、複数事業所で仕事体験ができるパッケージ型プログラムを企画し、参加学生の増加及び学生と企業のマッチング率の改善を図る
 - ③ 長期有償仕事体験について、参加を希望する学生や企業に参加の機会を提供する

(3) 高等教育機関WG

【目的】

- ・ 企業と学生のつながりを強化する教育の成果、学生の県内就職に向けたサポート体制等の検討

【開催状況】

- ・ 第1回：1/29、第2回：2/22（メール審議）

【活動状況（検討内容）】

- ・ 教育プログラムについて、各高等教育機関が検証方法と検証結果について報告を行った。（各高等教育機関における教育プログラムの効果検証方法は以下の通り）

【島根大学】

- ・ 前期・後期の履修登録のタイミングで学務情報システムを活用し、学生の就職希望地の変化を集計。履修している教育プログラムの関係を調査。

【県立大学】

- ・ 島根県内での就職意識に関するWEBアンケートと、電話による卒業生調査。

【松江高専】

- ・ 対象授業に参加した学生と、内定者に向けたアンケート調査。

【今後の課題や対応】

- ・ 各高等教育機関で実施されている学生と企業の接点作りにつながる教育プログラムの効果や地域志向について、アンケート等を用いて効果を検証していく。
- ・ 検証方法は省力化を念頭において効率的に実施し、コンソーシアム内でのその他の取組の改善に資するよう、検証結果は共有する。

(4) 経済団体WG

【目的】

- ・ 「届く求人」「響く求人」の拡大

【開催状況】

- ・ 第1回：6/9、第2回：11/27、第3回：2/22（メール審議）

【活動状況（検討内容）】

- ・ 令和4年度に実施した、求人実態アンケート調査の分析結果を企業に共有し、労働環境や労働対価の改善努力を推進していくことを当WGの方針として合意した。
- ・ 上記の合意を踏まえ、PRチラシを作成・配布し県内企業への周知に努めた。
- ・ 令和6年度は、令和5年度に実施した「学生の就活実態アンケート」を分析し、より効果的に学生に情報を届ける手法の検討・実施や、企業の魅力アップにつながるアクションを促していくことで合意した。

【今後の課題や対応】

- ・ 学生が就職したくなる企業（響く求人・届く求人に取り組む企業）の増加や採用力の強化に向けて、経済団体としてどのように取り組めるか検討を進める。

6. 令和6年度事業の新たな取組

(1) 令和6年度の取組方針

令和6年度は、コンソーシアム立ち上げから5年目を迎える。令和6年度事業計画に掲げている取組を着実に実施しながら、これまで4年間の取組を総括しつつ、足りない点、強化すべき取組を令和6年度以降の取組に反映できるよう、各構成団体の連携に留意しながら取組を進める。

特に、立ち上げ後、各ステージ、各取組に掲げる目標は達成しているものの、最終目標である県内就職率の向上に結び付いていないことから、各委員会、各WGで何に取り組むのかを中心に据えるのではなく、各委員会、各WGで共有された課題を構成団体としての取組にどう活かすのか、どう改善できるかに力点を置いて活動していく。

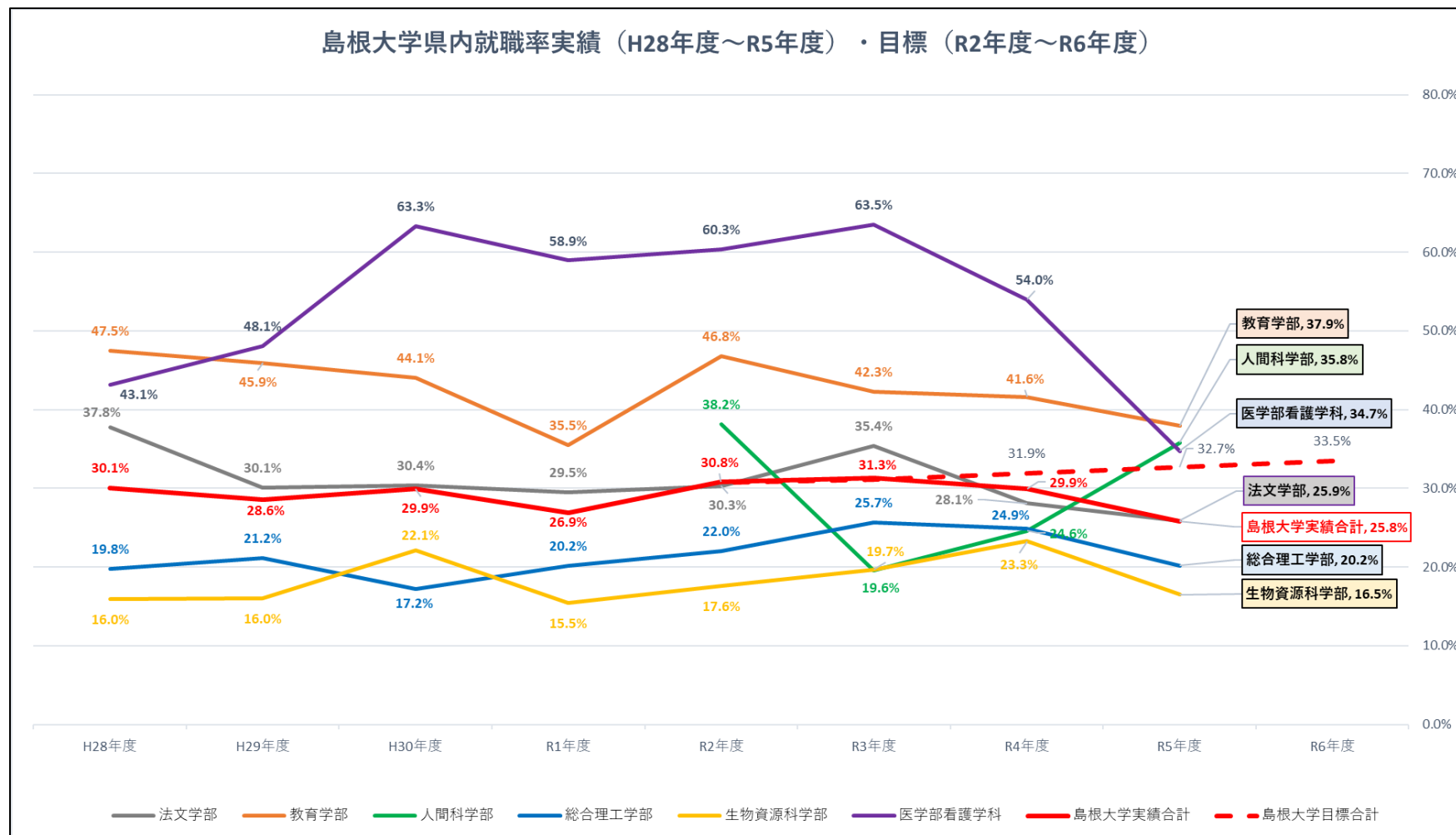
- 高等教育機関WGにおいては、令和5年度の検証結果を受け、引き続き、各高等教育機関において、企業と接点がある教育プログラムの効果検証を行いつつ、分析・検証結果を他の委員会、構成団体等と共有しながら効果向上に繋げていく。
- インターンシップ等推進委員会及び経済団体WGにおいては、これまでのアンケート結果などを共有しながら、人材確保に必要な情報発信とインターンシップ等も含めた企業の魅力の両輪が改善されるよう、インターンシップ等プログラム用チェックシートによるサポートなどを通じて具体的アクションを県内企業に促していく。
- 事務局においては、対面で学生が多く集まるしまね大交流会の場のさらなる活用や、学生と企業の接点作りとなる機会の創出に取り組みつつ、若者定着促進事業により各構成団体の取組をサポートする。
- 事務局が中心となり、企業の採用担当者が各支援機関等が主催するイベントを活用しやすい様に企業向けイベントカレンダーを作成するとともに、「イベント担当者会議」を主催し各高等教育機関や構成団体のイベント担当者との連携や事業改善につながる環境づくりを進める。

資料 1 : 令和 5 年度の K P I 達成状況

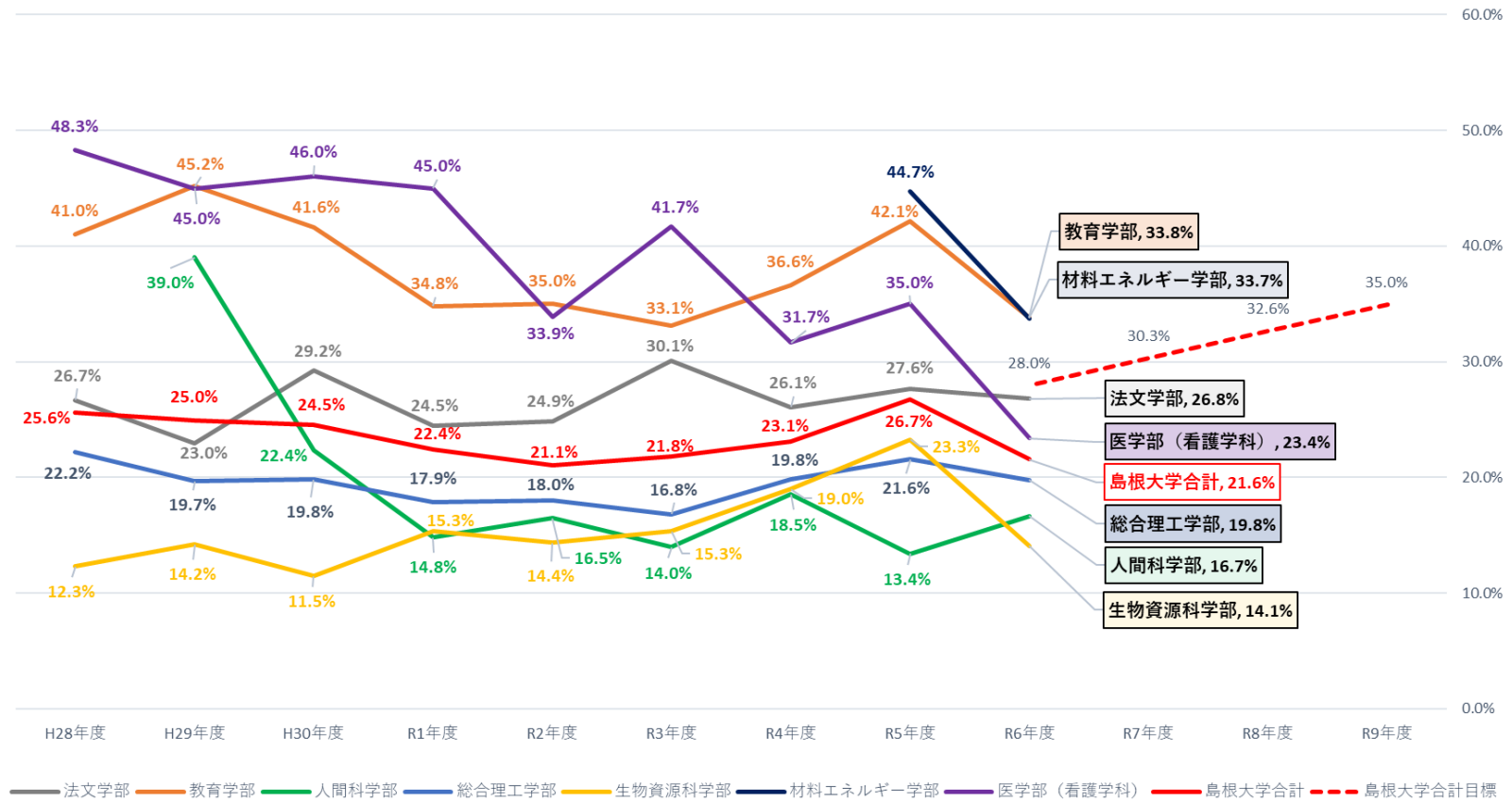
	KPI	事業 4 年目 (R5 目標)	事業 4 年目 (R5 実績)	実績内訳	事業5年目 (R6 目標内訳)
	県内高等教育機関卒業生の県内就職率	38.5%	32.3% 【未達】	○島根大学：25.8% ○島根県立大学：43.9% ○松江高専：22.3%	39.4% ○島根大学：33.5% ○島根県立大学：50.0% ○松江高専：33.8%
ステージ 4 企業を選択する	インターンシップ等 受入企業研修会への 参加企業数	190社	275社 【達成】	○雇用政策課/ジョブカフェしまね ・採用力向上セミナー：69社 ・インターンシップ等の改善・強化セミナー：92社 ○事務局（島根大学） ・学生のリアルな声が聞ける座談会：46社 ・大学教員・企業・就職相談員の意見交換会：35社 ・しまね協働教育フォーラム：33社	200社 ○雇用政策課/ジョブカフェしまね インターンシップ説明会等：80社 ○事務局 しまね大交流会研修会：20社 しまね協働教育フォーラム：100社
	県内事業所へのイン ターンシップ等参加 学生数	488人	611人 【達成】	○島根大学：242人 ○島根県立大学：259人 ○松江高専：110人	500人 ○島根大学：213人 ○島根県立大学：139人 ○松江高専：148人
ステージ 3 関心の高い 企業を深く 知る	企業等と連携した教育 プログラムへの参加 学生数	2,238人	2,993人 【達成】	○島根大学：2,203人（キャリアデザインプログラム等） ○島根県立大学：439人（共同研究事業、しまね地域マイスター課程等） ○松江高専：351人（ふるさと産業学、地域社会とエンジニア等）	2,278人 ○島根大学：1,908人 ○島根県立大学：155人 ○松江高専：215人
	企業等と連携した教育 プログラムへの参加 企業数	208社	314社 【達成】	○島根大学：93社（キャリアデザインプログラム、コース生等） ○島根県立大学：146社（共同研究事業、しまね地域マイスター課程等） ○松江高専：75社（ふるさと産業学、地域社会とエンジニア等）	210社 ○島根大学：111社 ○島根県立大学：27社 ○松江高専：72社
ステージ 2 島根の企業 を広く知る	企業見学ツアー及び 交流会の参加学生数	770人	973人 【達成】	○島根県（雇用政策課） ・島根大学：149人（バスツアー、OBOG交流会等） ・島根県立大学：311人（バスツアー、社会人トーク交流カフェ等） ・松江高専：513人（県内先進技術企業との交流会、バスツアー等）	795人 ○島根県（雇用政策課） ・島根大学：195人 ・島根県立大学：160人 ・松江高専：440人

資料 2：各高等教育機関の県内就職率と県内入学者率の推移

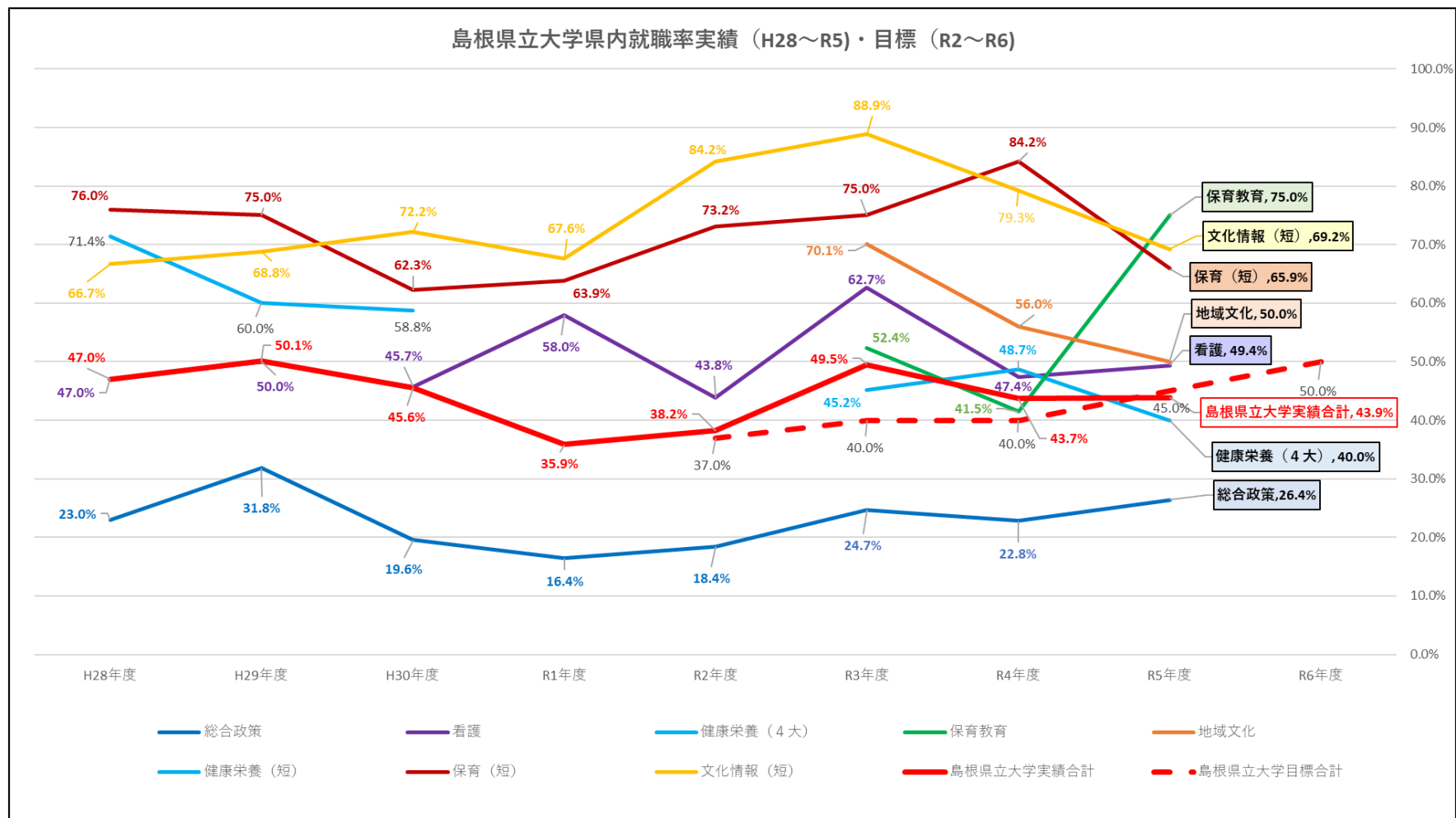
(1) 島根大学

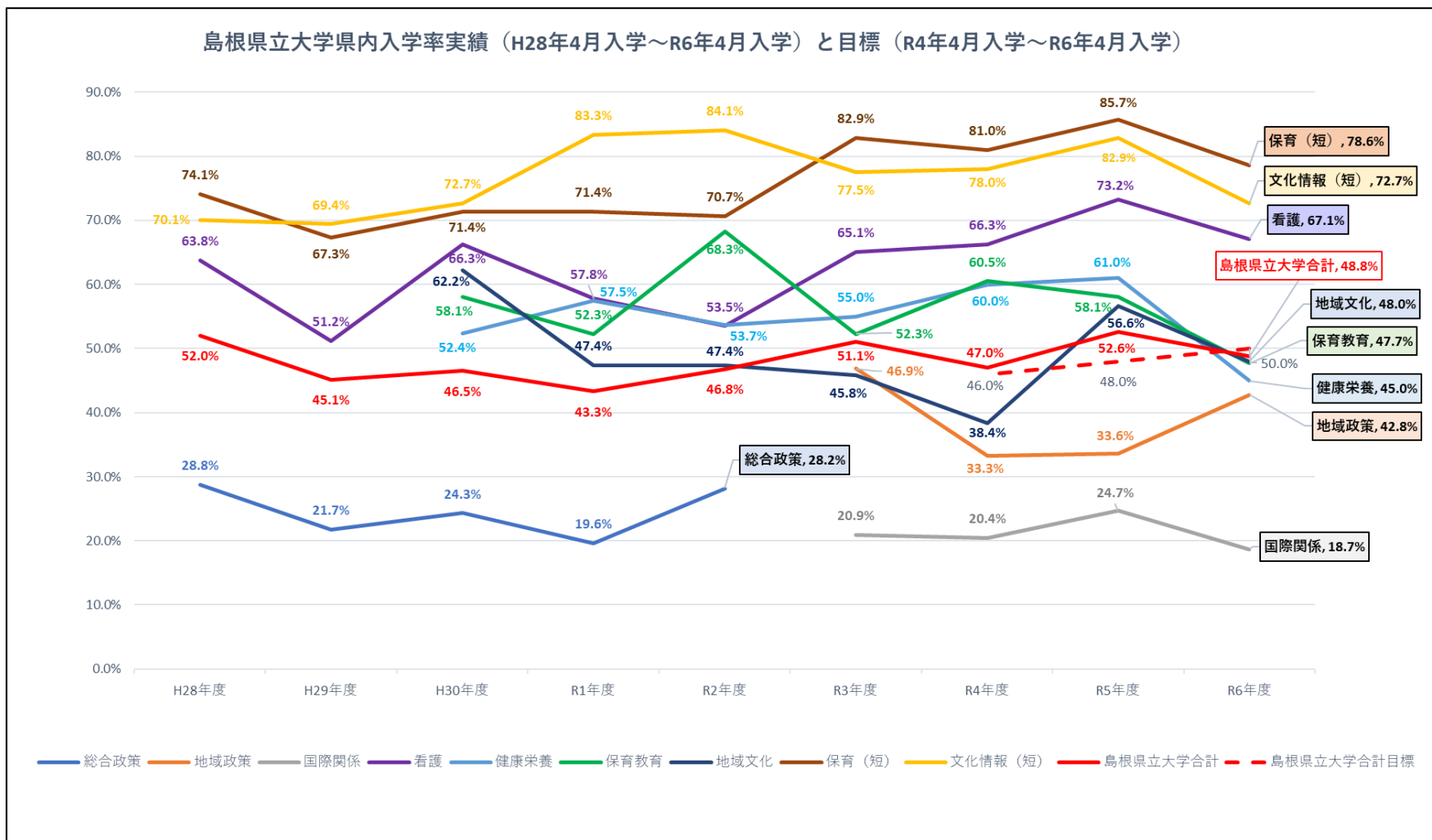


島根大学県内出身者入学率実績（H28年4月入学～R6年4月入学）と目標（R6年4月入学～R9年4月入学）



(2) 島根県立大学





(3) 松江工業高等専門学校

